

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

令和3(2021)年
1月号
通巻605号
毎月23日発行
(題字 矢追日聖)

★発行日 令和3年1月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)45-1192
★印刷 大倭印刷 監製
★定価 1部 300円
年間購読料3,500円(送料共)
★郵便振替 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



雪の日の風景、白山神社にて(竜田川左岸の丘陵地、由緒不詳、旧村社)

奈良県生駒郡斑鳩町 上本雅史さん撮影

再録 昭和41(1966)年5月23日発行『大倭新聞』第21号より

対談 日本とはなにか 〈上〉 前編

鶴見俊輔氏(43歳)×法主 矢追日聖(54歳)

今から約55年前、紫陽花邑で鶴見俊輔氏(当時、同志社大学教授)と法主様の対談が行われました。その様子を柴地則之さんが記事にまとめ、当時の『大倭新聞』一面を2号連続で飾っています。この対談記事を再編集し、今号より4回に分けて掲載します。(編集部)

アジア主義は無意味か？ 大東亜共栄圏の理念とは

編集部(柴地則之・24歳) 戦争は昭和20年8月15日で確かに終わりましたけれど、権力者の考えたようなものとは違う、純粋な「大東亜共栄圏」の理念がもうひとつあったんじゃないでしょうか。

例えば、外地で終戦を迎えた後、インドネシア独立戦争などに加わった旧日本軍兵士、あるいは内地へ帰ってきた軍人の中に、そういう純粋な理念があったのではないだろうか。

大東亜共栄圏の純粋な理念を生みだした、もうひとつの日本の思想を突き詰めていけば、日本人が古代から持ち続けてきた自然観に基づく、宗教のようなものにつながっていくと思うのです。

大東亜共栄圏という言葉は、なにかしら政治的に響きますし、進歩派から否定的にも見られます。しかし、この言葉を切り口として、日本の深層に迫れるのではないだろうか。また、古代論や宗教論のようなものが展開されるのではないだ

ろうか。こういう見方もできるでしょう。

宗教の形を取っていますけれど、大倭教には大東亜共栄圏の純粋なイデー、理念みたいなものが現れているような気がします。そういう理念を生み出した日本思想の母体と言うべきものは何だろうか、というところに焦点を合わせて、話を進めていただけたら。

法主 先生、このアジア主義というものには、ある程度の定説はあるんですか。

鶴見俊輔 いちおう、明治半ばから出現したこのような考えがアジア主義だろう、という意見の一致はあると思いますね。でも、そのアジア主義がどんな性格のものであるのか、評価は非常に分かれています。

戦争が終わった時に、進歩派の間でアジア主義は全部よくない、否定しなきゃいけない、という一種の合意ができました。でも、十分に考え抜かれてきた合意ではないから、アジア主義と言っても実際にはいろいろあります。必ず戦争に導くとか、軍国主義だとかいった性格のものばかりじゃないですよ。

最近、良いも悪いも含めてアジア主義をもう一度見直してみよう、という動きもあります。^{※1}竹内好さんが作ったのでしょうか。悪いだけのものじゃない、という考え方でね。そこでまた、いろいろと意見が分かれているわけです。(※1: 雑誌『思想の科学』発行にも関わり、鶴見氏と交流の深かった文芸評論家・中国文学研究者、戦後の反権力知識人を代表する一人、著書に『竹内好全集』など)

法主 そうですね。いろいろなものが含まれているでしょうね。

鶴見 だけど、依然としてあれはケンカラン、と主張するだけの説も根強いんです。

戦時中に日本政府や軍などが宣伝していた大東

亜共栄圏の確立には、武力が手伝いました。アジア主義はそのようなものだと思われてきましたね。石原莞爾もその一人だったと思いますけど。

しかし、戦争とか武力を抜きにして、ちょっと考え直さなきゃイカンでしょう。アジア主義の流れには、昭和6年以降の国家政策(満州事変に始まり、日中戦争、太平洋戦争と拡大していった日本帝国主義)とは違う面もある。つまり、明治維新に始まり昭和20年の敗戦で終わった明治国家には、もともと違う可能性があったんだ、と。

作られたものと、それを作った力とを比べれば、作られたものよりも、それを作った力の方が幾分大きいわけです。いつでもそうだと思います。実現したものは小さくても、それを実現させた意図は、いろいろな別の可能性を持っています。

明治維新というものを作り、明治国家というものを作った力は、日本の神話や日本の土着的な思想の上に社会を設計するという考え方でですね。その考え方の中には、もつといろいろな可能性があって、それを引き出すことはできないか。いや、できるはずだと。そこまでは支持します、私は。

ただ、それが果たしてどういう力なのか、非常にしつかりした根拠に基づいて論証するところまではたどり着いていない。非常に自信を持って言えるのは、作られたものより、作った力の方がいっつも大きい、ということですね。明治国家は破産し、他国を侵略して弱い者いじめしました。だからといって、明治国家を作った元の考え方が全然ダメだった、とは言い切れないんですよ。

法主 そうでしょうね。

科学信仰からの脱却

鶴見 また、科学に対する日本の考え方ですがね。

明治以降の日本人は、科学に対して、かけるべきではない大きな期待をかけてきた、と感じます。人間が生きていく上での理想を作ることが、科学にはできないわけですよ。理想、力というものは、科学とは別のところから出てくるんです。

日本の神道は非科学的であるから、全部潰さなきゃいけない。科学的な別の体系に置き換えなきゃいけない。そういう考え方が、明治中ごろから日本の学者、学生、進歩派の中に生まれました。でも、明治以前の日本人の信仰を、全体として非科学的だからと退ける評価は間違っているのではないだろうか。

科学の役割はそうじゃない。現実と合わないだとか、論証不十分だとか、作り出した理想を批判することなら科学にできますよ。実行できるのかできないのか、実行できる者は何人いて、出せる力はこれだけだから、何日までには作れないだろう、とか。

マルクス・レーニン主義は科学的な体系であるように思われている。マルクス主義だけじゃなくて、別の唯物論も、プラグマティズム(実用主義)もそうです。科学に対して、理想の社会とは何か、人間はどういうふう生きるべきなのか、ただ一つの答を出してくれと要求するのは、そもそも間違っていると思いますね。

だけど、元の考え方の中から汲み尽くせていない、いろいろな可能性がどういふものか、まだ憶測の域を出ないのです。

カンが働いて、私が何か言ったとしますね。しかし、それが神道研究者の言ったこと以上に確実な説だと推察しきれない自信はないんです。だから、私には私なりの解釈がありますけれど、その解釈にはつきりした根拠があるのか、と問われると、大変具合が悪いわけです。

転生とついで心の遍歴

法主 その時の定説が将来覆ることもありま
ね。あまり自信ないのが本当じゃありませんか。自
分には信じられたとしても、客観性があるのか
いのか、と問われたらね。私は神道関係の宗教に
おるように見られていますけど、案外本は読みま
せんし、神道家の書物もほとんど見てません。知
らなだけにやりやすいし、知識に邪魔されな
から楽なんです。

普通の人は、例えば本を読んで勉強するとか、
いろんな人の意見で自分を練磨し、その上で研
究を進めたりして、知識を積み重ねていくわけ
でしょう。私の場合は、そういう積み重ねが案外少
ないんです。直観と言うのか、氣違いじみた言
い方をすれば、霊界と直通なんです。
神道がどういふものか、私にはわかりませんが、

自分がどういふふうに一生涯生きてゆかなきゃ
ならないか、ということにはわかっています。この
点においては誰に何を言われようとも、譲れない
んががあります。

だから、私自身がアジア主義なのかと問われ
ても、よくわからない。ただ、朝鮮人や支那人(中
国)、蒙古人(モンゴル人)、満人(ツングース系
満州民族)だの言うても、外国人みたいに思いません。
なぜかと言えは、仏教でよく転生して言う
よう。生まれ変わりとか。今から何百年前、
インドに生まれたり、あるいは中国に生まれたり
した前世、心の遍歴が私にあるからなんです。

以心伝心の日本人

法主 支那人(※法主発言は「支那人」で統一、
国名は「中国」で統一)を見て、自分は何百年
か前の時、中国に生まれてああいうことをして

主義的な意識もないんです。思想とか学問を研究
している人たちは違う感覚、意見でしょうね。
だけど、その人たちとの接点も、私のどこかに
あるはずなんです。

人に言うたって理解してもらえないでしょ
うし、信じてもらわなくてもいいんですよ。現世、私
が生まれた場所は日本ですから、日本人的な生
き方、見方をしている面はあるかもしれないです。
アジアの国は全部家族、という感覚があるから、
八紘一宇という言葉も昔使いました。だけど、大
政翼賛会の言っていた八紘一宇とは全然違いま
した。同じ八紘一宇という言葉を使いながら、ま
た日本主義(国粹主義)的なグループに近い立
場におりながら、体制側からはなにかしら要
注人物扱いされてました。

鶴見 他人の中に、自分の心がすっと入れら
れる人と、そうじゃない人があります。
私は10年くらい前に、今井正と会いました。
『また逢う日まで』『ひめゆりの塔』などの映
画を作った映画監督ですね。

今井正は、子供の時から人の気持ちがわかり
すぎて困ったそうです。中学生の時など、机の中
に忘れ物したふりをして、他の連中が帰って
しまふのを待つてから、一人で帰った。一緒に帰
ると、他人の気持ちがわかって、煩わしくてたま
らない。孤独になった時、初めて心がゆっくり
落ち着けると言う。

今井正にとって、映画監督は非常にピツタ
リした職業ですよ。映画監督というのは、他人の中
へ自分の心を入れて、他人の目で物事を見ること
ができる人なんです。

私は人の気持ちがわからない。わからない、と
自覚することだけは、断固として忘れないよう
に努めています。だけど、今井正の話を聞くと、心



『大倭新聞』は昭和39(1964)年8月1日第1号～昭和41(1966)年12月23日第25号まで発行。以後、『大倭』と改題、雑誌として昭和43(1968)年初めの通巻29号まで発行した。

自然と湧いてくるんです。アジアの国の人が一番身近です。なにかしら同郷人のような、紫陽花色の人たちと会うような感じですね。そういう感覚に基づいた意識であって、アジア主義とか何かの思想に基づいているわけではありません。日本人に対する感覚と支那人に対する感覚は同じです。日本だけがどうこうというような国家

の動き方が私とぜんぜん違いますね。なるほどなあ、と思います。

法主 各々、個人差がありますしね。

日本精神の伝統

鶴見 今井正のような心が広がっていきますと、猫を見たら、猫の目からこう見る。犬を見ても、犬の目からこう見る。他者の視点が自分の見方に入り込むわけですね。だから、歴史をいろいろな角度から撮ることが出来る。ローマの時代から見る事が出来る。バビロンの時代から見る事が出来る。日本人の気持ちの中には、そういう心の動きの型が伝統的にあると思います。

キリスト教とかユダヤ教というのは、およそ他人の気持ちをおおさくさせる宗教ですよ。私自身のパーソナリティ(人格)の型はユダヤ教的、キリスト教的じゃないですかね。人の気持ちがわからないから(笑)。

日本の宗教の伝統というか、パーソナリティの型というのは、他人の気持ちがわかり得ることだし、他人の視点で物事を見られることです。ところが明治以降、国家政策という特別な力によって、近代文明を自国民に押し付けた。ある意味必要だったのですが、他国民の気持ちをわからなくさせるような教育を小学生から大学生まで、一貫してやりました。

その成果が、明治を経て大正、昭和とだんだん力を現しました。満州事変から今度の敗戦(昭和20年8月)までの時代にね。

そもそも、明治政府を国民がまだ信用していなかった明治の初めごろ、その一貫教育は十分に力を持っていなかった。当時は他人の気持ちをわかる人たちが政治をやっていたから、ヨーロッパへ

行っても中国へ行っても、外国人の気持ちがある程度わかりました。

しかし昭和になると、その伝統的な型が怪しくなってきた。つまり、明治国家の意志が通った。そして明治国家の意志が実現した結果、明治国家は滅んだ。

なぜかと言うと、明治国家を支えたその原動力というのは、明治国家の教育を受けていない人たちが作ったから。伊藤博文とか井上馨とかはね、他人の気持ちがわかる人たちです。イギリスへ行けば、イギリス人は日本に対してこう出るだろうってわかった。夢中になって教育制度を作った森有礼も、アメリカへ渡り、アメリカ人の気持ちになつて日本を見た。

ところが、明治の近代的な教育制度で作られた人間は、森有礼とか伊藤博文の能力を持ってないわけですよ。だから、日本は万国に冠たる国であり、日本の天皇の意見は絶対に正しい、という主張を押し通せると考えた。アメリカ人がなんと云おうが、中国人がどう見ようが、おかまいなしになつてしまったんです。

日本人の能力は本来そうじゃないと思いますね。憶測ですけど、私の知る人物の中で本来の能力の片鱗を見せていたのは、^{※2}永田秀次郎。戦前に東京市長やつて、ラジオを通じてしょっちゅう話してました。(※2: 官僚、市長、知事、大学学長、貴族院議員、大臣など多数のポストを歴任した政治家。軍政顧問として太平洋戦争中に赴任したフイリンで死去。俳人、随筆家としても活動した)

法主 よく聞きます。

土地に合わせる

鶴見 演説のうまい人でした。戦時中は南方派遣

軍顧問を務め、日本占領地の政治を決定する立場でしたが、同時に、永田青嵐という俳名の俳人でもありました。

その戦時中、俳句の歳時記論争というのがありましてね。歳時記を日本の占領地のマレー半島、シ

ンガポール、ジャワ、チモール(ティモール島)方面に押し付けるかどうか、そのまま通用させるかさせないか、そういう議論です。

現地には俳句を作る兵隊もいっぱいいたはずですが、そこで一句詠む時、日本の歳時記の季節で作るべきだろうか。トンボが出てきたら秋、雨がでてきたら五月とかね。ところがジャワですと、季節が雨季と乾季だけです。ぜんぜん日本の四季と関係がない。それでも日本流で押し切るべきかどうか、論争になりました。

永田青嵐は「歳時記はその土地その土地によって違う。マレーへ行けばマレーの歳時記だ。日本の伝統的な歳時記は全体として再編成されなきゃいけない」という考えの持ち主でした。

これはその土地その土地の気持ちに合わせて、つまり、その土地の住人の習慣と幸福感に合わせて行政の形が変わってこなくちゃいけない、という考え方にも通じますね。この考え方が本来の日本の政治感覚じゃないかと思えます。根本にあるのは人の気持ちがわかる、という感覚です。

永田青嵐の考え方は主流になりませんでした。だけど、あるべき日本思想は永田の考え方であつ



昭和55年1月15日：鶴見ゼミ「40歳記念コンパ」鶴見先生宅にて
前列中央が鶴見先生、前列左端が柴地則之さん

て、明治以前の伝統につながっていると私は思います。その土地の気持がわからなくて、自分たちの意見を押し付けるアメリカのやり方とはかなり違う。同時に、昭和の日本がやった占領政策ともかなり違います。

それから戦後になって、無国籍映画と呼ばれたアクション映画が流行りました。渡り鳥なんとかって題名の。皮ズボンにカウボーイの帽子、ピストル持った日本人の主人公が平原を馬に乗り、悪漢と撃ち合いして大活躍する。よくよく風景を見ると、見覚えがある。北海道なんだな、そこは(笑)。北海道でそんなこと本当はできっこない

「神通力如是」の真意をさぐる

じんずうりきによぜ

第十一回 大倭教の源流にさかのぼって

今回は、まず本連載の第九回目の内容に対して読者から出された疑問について三人会として一つの解釈を最初に載せ、その後「神通力如是」の続きを紹介していきます。

今回の「原文」は第十回目の続きで、昭和十六年十一月十日付のものです。

この連載の内容についてのご意見や疑問があれば、遠慮なくお寄せください。

第九回目への疑問・ご質問に答えて

数人の方々から同様の質問をいただいた。(『おおよまと』紙10月号8頁参照)

それは「神通力如是」十一月十日のニニギノミコトへの言説が何故クシイナダヒメからのものであり、もしそうならば何故ヒメは故意にタカチホとトミ(大倭)を戦わせしめ、この現界に数多くの悲しみと憎しみをもたらしたのかという疑問で

と知りつつも、アメリカ的発想で作れるわけですから。一方で『悲しき六十才』なんて歌が出てくる。原曲はムスターフとかいう、トルコの世俗を歌った曲でしょう。こういう傾向が非常に批判を浴びました。戦後の日本人は頹廃していると。(※3…エジプト人が作曲、トルコ語ほか各国語で歌われ、日本では坂本九が歌ってヒットした曲)

だけど、私は批判する立場も取らないです。日本人の能力は、本来アメリカ人のようなしぐさもできるし、トルコ人のようなしぐさもできる。パツと彼らの気持ちの中に入っちゃう。それは長所ではないか。

あった。それらの問いは当然のものであり、他にも同様の考えを持たれている方もおられると思います、今回ここに私達なりの考えを掲載させていただくこととした。

先ず何故この言説がクシイナダヒメからのものであるかについてであるか、それは言説の最初に皇祖がニニギノミコトに語ったとあり、「神通力如是」の中では皇祖と言えばクシイナダヒメを指すからなのである。

では何故ヤマトの皇祖であるヒメがタカチホ族のニニギノミコトに語りかけたのか。

法主の遺稿「大倭神宮伝承の紀 後編(上)」(『おおよまと』平成26年7月号4頁参照)の中では同様の内容を語ったのは大祖神として書かれている。この事は、大祖神からの神託を受けるのが皇祖であるならば、大祖神^{ニニギハヤヒ}と皇祖の^{ニニギノミコト}関係が成り立つからである。又、法主は『やわらぎの黙示』

だから、無国籍映画が作られるということは、単に憂うべき現象ではなく、むしろ、そこに日本の役割が表れているのではないか。明治以前の日本流の考え方、感じ方の基盤があるのではないか。アメリカ人の気持ちがよくわかるし、ベトナム人の気持ちもよくわかる。中国人の気持ちもよくわかる。そういった自他の交錯の中で、新しく日本を作り直す、という考え方ですね。

でも、それは私の思想ともちよつと違います。つまり、私には人の気持ちがわからないから。ああ、日本人は他人の気持ちがよくわかるんだなって感心するだけなんです(笑)。(次号に続く)

の130〜131頁の中で、天神(大祖神)は両族各々の祖であるニギハヤヒノミコトとニニギノミコトに御祖の詔を授け、現界に天降させたことを書かれ、両族が靈統を同じくするものとされている。

次に、それならば皇祖は何故靈統をおなじくする二つの勢力を戦わせ、平和境を保っていたオオヤマトの国に波乱を起こし、それに付随する多くの悲劇を両族にもたらしたのかという疑問について述べなければならぬのだが、この疑問に対する三人の会としての確かな回答は出し得ない。ただ、ここに一つの回答たるべき試論を述べるにどうめたい。

人の世は因縁によって動いているという。そしてその因縁を操る原動力は人の業であるという。私共にとつて非情とも思える大祖神のはからい、その人の業の解消によるものではあるまいか。

そしてそれは時には我々の想像を遙かに超えた事件や災いとして、この世に現出するのかもしれない。タカチホとトミの争いや太平洋戦争にあらわれた数々の悲劇は、新しい世を開くためのおおいなる業解消の試練であったかもしれない。ここに、その根拠ともすべき法主ご自身の文章を引用して載せ、皆様のご判断をおおぎたい。

ただ畏み往く非情の道は、大きな大きな加美はからの道かもしれない。それを知るナガソネヒコノミコトの心を知る者は果たして……。

《「長曾根日子命との対話」》

私が若かりし頃、長曾根日子命は金鶏祥祥のときを受けた天啓を話してくれた。摺筆にあたって簡略にその要点だけ紹介する。

倭は親許の意、宇宙創成の気は万物一切の大親元（大倭）である。この神ながらの原理は万物一切に存在している。

大きくは宇宙から小さくは人間個人の中に実在している。人間の「おやまと」は両性の陽物陰物（生殖器）に存するが、この相対は間断なく一体的の動きがある。相対の気が満ちて一体となるとき神ながらの動きが生じて、やがて陰性の胎内に新しき生命体が宿りこの世に生まれ出る。

この理を前提として、話は少し大きく建国創業へと移ってゆく。

霊界は、高千穂は男性（父、タミ産霊）、大倭は女性（母、カミ産霊）の立場において大同融和の気が動きだした。陽性（高千穂）は陰性（大倭）に恋慕して行動を開始した。長い歳月を経て大倭に近づいた。生駒山の彼方（西）から恐る恐るの氣を伺って手を差し伸べた。だが、横腹から無断で這い上がることは神意に反すと大倭は強く肘鉄砲をくらわした。驚いてあとずさりをした高千穂は

足許（熊野灘）でつまずきながらも辛うじて大倭（北）の正面（南）に立ちふさがった。待つてましたとばかり大倭の興奮は高千穂をコテンコテンにあしらった。あたりは暗く見え氷雨を流した両者、気は正にその極に達したとき、光（金鶏）を放射して「和」の生命を大倭に宿した。高千穂は矢の働き、大倭は的の働き、これを一体とすれば「やまと」の言霊にもなる。

時代の流れはこの波紋を更に大きく引き、世界的にみれば日本国が大倭の立場になりつつ、今日の日本国にまで進展してきたことを示して結ばれた。

私は長曾根日子命の自決の心境を把むことができたと同時に、命のこの敬神崇祖の精神を世に伝える責任を感じている。

私は何の宿習か、古代の長曾根邑の中央部、鳥見庄中村に誕生した。私は素直に靈示に基づいて精進を続けてきたのであるが、いつとはなしに私を取り巻いて「紫陽花邑」ができてしまった。

歴史の還元性が、神のお計らいか、悠久の太古よりこの地に埋まっていた「大らかにして和やかな」古代社会の一角が、再び同じ土の上に昭和の時代色を帯びて浮かび出たといえるのである。

これ大東亜戦争が生み出した新生命でなくて何であろう。（昭和三十九年十二月十五日）
（野草社『やわらぎの黙示』140～141頁）

原文

同日、午後九時半、於 鳥見庄山

御神示により輪孺香の父成川栄三郎を大阪より呼ぶ。母さだは二、三日前より

庄山宅にあり。

夜、日聖、神憑・輪孺香、父栄三郎、母さだ、座にあり。

「倭姫、オン前ケガシ奉ル、イマシバシオユルシアレ」ナムミヤウホレンゲキヤウー、、、神楽手舞。

合掌、栄三郎、さだの両親の方に向を変る。

「吾ハ、大倭トビノモリ、奇稲田姫一。熊谷、汝等、今日呼ビシハ、永年ノ間

ノカズカズノ功德ヲ厚ク御礼申ス。汝等、前ノ世ニ於テ、ワレラガ父母ト

ナリ、コノ奇稲田姫ヲウマセラレ、其ノ縁ニヨリコノ末法ノ世ニ再ビ出シテ妙

法ノ正法ヲ唱ヘサセンガ為、吾レ（世ニ）イダシタリ。

熊谷、ヨク聞ケ、妙法ノ正法トナヘ末法ノ世ニ出デテ吾ガ罪障ヲヌグイト

リ、行ヲナシ、題目供養イタセー。（向きなほる）

倭姫、日日ノ題目供養、御苦勞一、吾レトモニ題目供養ナサン。怨敵退散」

礼、

「倭姫、有難キ才言葉ノカズカズ厚クオン禮申シ奉ル。日日拙ナキワザヲ、オン前ケガシマイラセシ罪、何トゾオユルシ召サレ。題目、倭姫、オイトマ仕リマス」

一休、法話して居る時、

「神楽… 倭姫、オン前ケガシタテマツル」題目。アーアー
 「竹ノ園生ノフカミドリ、大内山ニ色ハエテ、幾千代マデモ、皇孫ノ、幾千代マデモスメミノ、ワガヒノモトノーメデターケエレー」題目、、、神楽手舞。
 「善哉、善哉、アーメデターヤナーメデターヤナー」

「フツツカナルワザ、オン前ケガシマイラセ、オユルシアレ。倭姫、コレニテオイトマ仕ル」拍手

⑦ 附言
 脚摩乳(父) 手摩乳(母) は上の座に、奇稲田姫命は下の座にありて御挨拶をなし玉ふ。

(実相) 栄三郎、さだの二人感動して嗚咽す。栄三郎、神楽の最中鈴音しきりと聞ゆと語る。

註 釈

① 成川栄三郎
 成川静枝(法主の妻、妙月)の父。没年、昭和30年2月27日。
 明治17年6月4日、和歌山に生まれる。大正3年から大阪市で金属商を営む資産家。
 最初、生母(法主の母・日妙)の信者であったかと思われるが、昭和11年3月11日、娘静枝が

法主(隆家)と結婚の後、昭和15年頃から始まる法主の財団法人八紘会買取とその社会活動事業を全面的に支援しつつ、多額の資金援助を行う。
 ② さだ(貞)

成川静枝の継母。夫栄三郎と共に、生母(日妙)や法主の活動に尽力された。
 昭和15年8月8日付で財団法人八紘会が大倭塾経営のために交わした土地貸借契約書には、契約者として成川栄三郎とともに成川さだ子の名で署名が記されているのを確認できる。

聖歌「くにのもと」には矢追妙月憑詩、成川貞作曲とあり、母と娘による共同作品である。
 ③ 熊谷

熊谷とは熊谷直実のことで、成川栄三郎の前世が熊谷直実とされることから「熊谷」と呼ばれている。
 熊谷直実(くまがいなおざね)(1141~1208・永治1~承元2)。鎌倉時代初期の武将。武蔵大里郡熊谷郷(埼玉県)の住人。直貞の2男。通称二郎。

初め平家方の大庭景親に従って石橋山の戦いで源頼朝を攻めたが、のち頼朝の麾下に属した。平家追討に活躍し一の谷の戦いで平敦盛を討つたことで知られる。
 1192(建久3)年久下直光との所領争いに敗れ憤慨して出家し、法然の門に入り、蓮生(れんじょう)と号した。

(むさし書房『日本人名事典』による)
 「杉本の記憶」

瑞光院(法主宅)の茶の間で日常の話題の中で何度となく「成川のおじいちゃん」は熊谷二郎直実(むさし)と聞かされ、昔の武士に関心はなかった私でも自然に覚えてしまった程である。

④ 永年ノ間ノカズカズノ功德
 隆蔵(法主父)、生母、法主等の矢追家の活動に関する様々な援助のことである。
 ⑤ ワレラガ父母トナリ

成川夫婦の前世は奇稲田姫姉妹の両親(脚摩乳(父)・手摩乳(母))であり、奇稲田姫を生んだ。

脚摩乳(父)・手摩乳(母)について、「古事記では足名稚・手名稚。記紀の神話伝説で天から降ったスサノオが出会った国津神の夫婦」。女を足なで手なでする(霊)の意。

古事記ではアシナヅチはオオヤマヅミの子とする。女の奇稲田姫をスサノオが八岐大蛇から救って妻とした。
 (山川出版社『日本史人物事典』による)

⑥ 法話
 妙月の神憑りがおさまっている間に、同座している者たちに、それぞれの因縁について法主が話されたと思われる。
 ⑦ 附言

前の世での上下の関係(親と子)を形で示すため、両親を上座に自分(妙月に憑った奇稲田姫)を下座においた。

〈参考〉

「神通力如是」に於いては前の世という考え方が随所に出てくる。例えば、成川栄三郎の前の世が熊谷直実であり、脚摩乳であり、後に登場する藤原豊成であるというように。

この前の世が存在するという事実が「神通力如是」を貫く底流のひとつになっていることを読者は心に留めておいていただきたい。

あじさい日誌

12月8日 日本とアメリカ合衆国との開戦記念日(昭和16年)でした。

宮津市の藤本宏秋さんが来邑。ちよと本紙編集会議の日だったので、参加してもらいました。

12月13日 午前8時から大倭墓地、9時から紫陽花邑の大掃除。地域貢献の安宿苑職員さん達が強力な助っ人でした。

12月15日 大倭神宮月次祭。

12月22日 大倭神宮や邑内各所に門松が飾られ日聖祭の準備が行われました。

12月23日 大倭七十七年元旦。

午前10時から法主さんの奥津城でご挨拶、10時半から拝殿で日聖祭が行われました。

祭典後、恒例の矢追美壽紀安宿苑理事長のご挨拶では、コロ



ナの対応に緊張が続いているお話を、さらに(昨秋、ならまちリハビリテーション病院という新名称で既に移転済の)元大倭

病院の跡地を大倭安宿苑として買取の見込みである、将来は福祉のために活用したいという報告がありました。

拝殿での祭典のあと邑内の各守護霊さん達に新年のご挨拶。

FIWCのOBで、元邑人の押川康宣さん(大阪府八尾市・77歳)が帰幽されました。

12月27日 大倭神宮の大掃除。

高橋良美さんが前もって古竹の処理をしてくれていたのので、9時開始予定を10時半にしても昼食時まで終了しました。

12月30日 高橋良美さんが先月25日に大怪我。西奈良中央病院に入院中でしたが、この日担当医の松本元嗣先生に付き添われて外出。何とか自分で歩いて大倭神宮や奥津城にお参り、教長さんにもご挨拶等々。面会も許されない時節柄、みんな驚き喜んで迎えました。(退院はまだ先ですが)

12月30日 例年はお餅搗ぎの日ですが中止、餅搗ぎ機でお供えの鏡餅のみ作られました。

FIWCの年末キャンプも中止されました。

12月31日 邑の男組で1月初日の拝殿と大倭神宮のお供え物を組み上げました。

青山法義さんと山崎将晴さんにより、年越しの大大鼓の打ち鳴らしが行われました。一年12カ月分の清め祓いとして12回。

1月1日 1時から邑内の守護

神へのご挨拶の後、2時から大倭神宮で年始祭が行われました。

1月5日 午前11時から紫陽花邑事業関係者の始めの会。コロナ感染対策で、社会福祉法人

大倭安宿苑・大倭印刷(株)から各3名、大倭殖産(株)から4名、教務本庁から1名が代表として参加するという形でした。

1月6日 大倭神宮月次祭。

大倭安宿苑では

12月10日 恒例の表彰祝賀会は中止。少人数の代表者で被表彰者報告会が行われました。

(菅原園)

12月24日 年忘れ会。規模を縮小、感染症対策をしながらクレープを食べてクイズ大会。

1月1日 50周年創立記念日。(須加宮祭)

12月30日 年末大掃除で、タンスの裏まできれいになりました。(長曾根祭)

12月24日(特養)恒例のクリスマスケーキ作りは

取りやめ、市販のケーキと温かいココア。
12月25日(デイ)クリスマス会。1年間の写真を映像で楽しみ、豪華ランチ等。(茂毛路園)

法主帰幽祭のご案内

日時 令和3年2月6日(火曜日)

●午後1時40分より法主様奥津城(わくつき)においてご挨拶をいたします。

●午後2時より大本宮拝殿にてお参り後、過去の12月23日の降誕祭の映像記録を見ていただき、その後教長さんのお言葉をいただきます。

密集・密接を避けるため、ご配慮・ご協力のほど、どうぞよろしくお願い致します。

宗教法人 大倭 教

あんない

*玉緒祭(大本宮)
2月2日(火) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

玉緒祭は宇宙根本神霊と人間の本霊との結びを感じてお祭り。玉は命を、緒は心もを言う。

*月次祭(大倭神宮)

2月6日(土) 午後2時より大倭神宮にて。

*法主帰幽祭

2月9日(火) 上欄参照。

*大倭会主催祝会

2月14日(日) 中止とします。

*月次祭(大倭神宮)

2月15日(月) 午後2時より大倭神宮にて。

*申孝祭と月次祭(大本宮)

2月23日(祝) 午後1時20分より大倭神宮にて申孝祭が、2時より大倭大本宮拝殿にて月次祭が行われます。

申孝祭は、神武天皇が行った祭政一致の故事、鳥見山中の霊時を記念するお祭りです。

編集後記

▼いつまで『おおやまと』がこの形で発行できるのかは神ながらに随うこととして、とりあえず未掲載の法話も出てくるし協力態勢もありがたいほどです。ただ表紙写真のやりくりがこのところクルシイ。募集しています。ふるってどうぞ! (春)